

## 資料1

# 小金井市の空家等を取り巻く状況について

- (1) 人口・世帯の動向
- (2) 住宅事情
- (3) 統計による空き家の状況

第2回小金井市空家等対策協議会

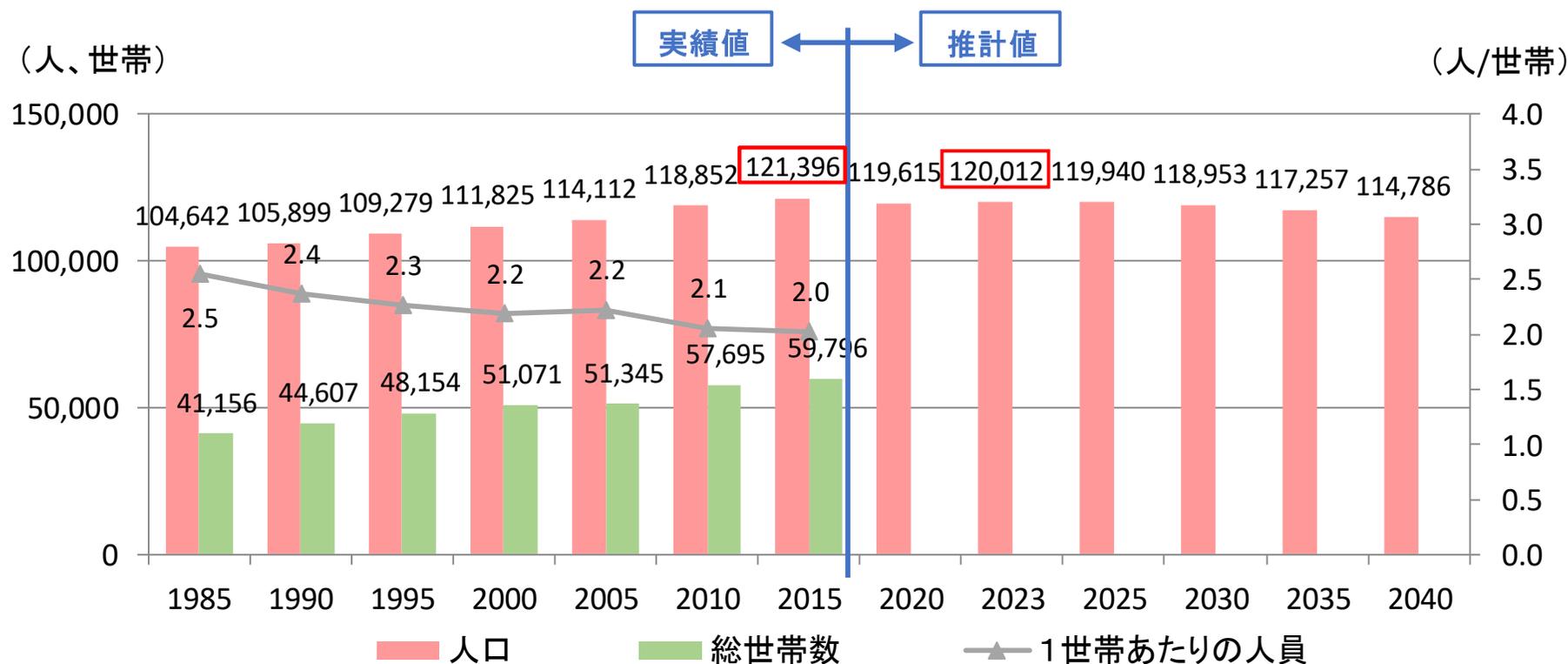
平成30年1月31日

# (1) 人口・世帯の動向

## ①人口は2023年(平成35年)以降、年々減少するとともに増加傾向

- 国勢調査によると、2015年(平成27年)の人口は約12万人、世帯数は約6万世帯
- 人口は、2023年(平成35年)以降、年々減少すると予想

図 人口・世帯数の推移と将来予測



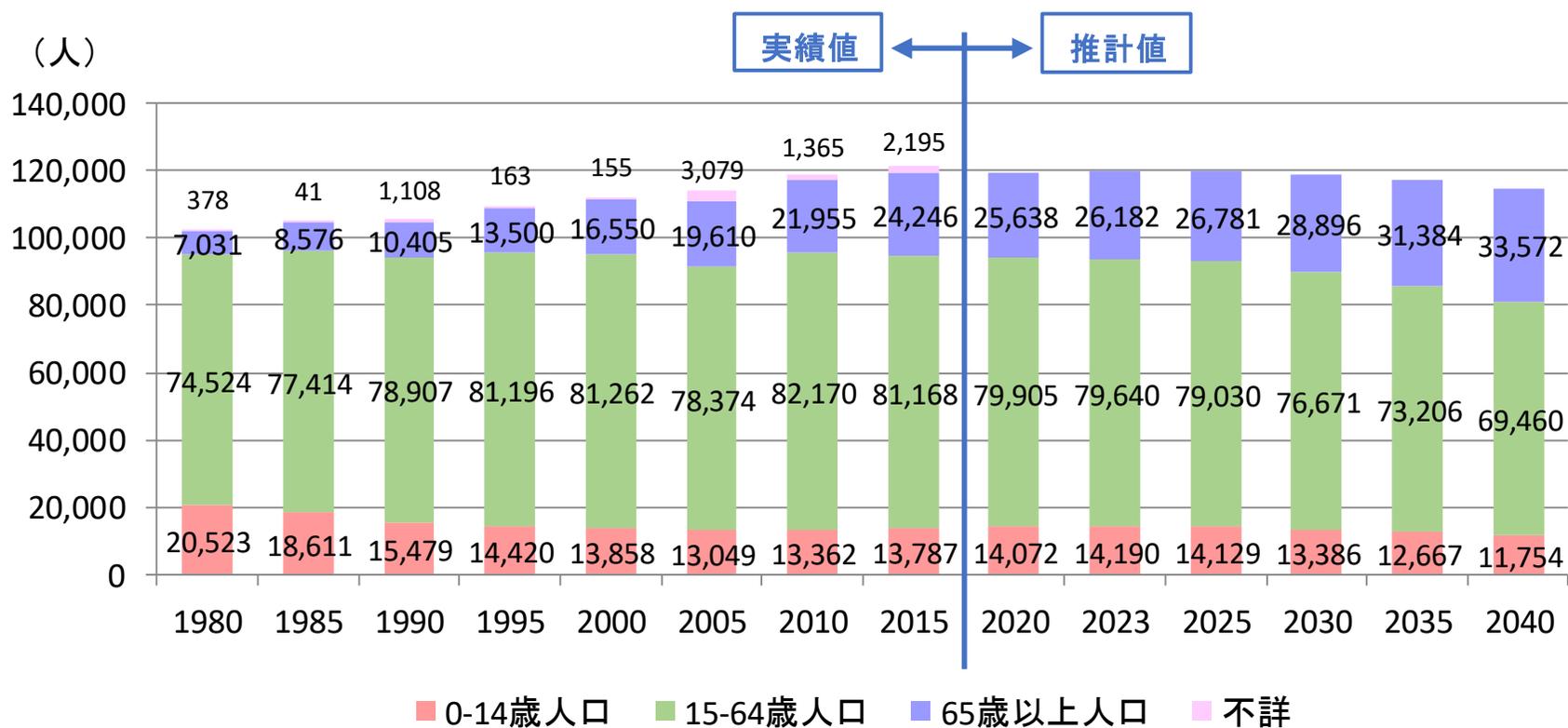
資料：国勢調査（～2015）、小金井市第4次基本構想・後期基本計画（2020～）

# (1) 人口・世帯の動向

## ② 今後も少子高齢化が進展

- 年齢3区分別にみると、0歳～14歳及び15歳～64歳の人口が減少し、65歳以上の人口が増加
- 今後も少子高齢化が進展する見込み

図 年齢3区分別人口の推移と将来予測



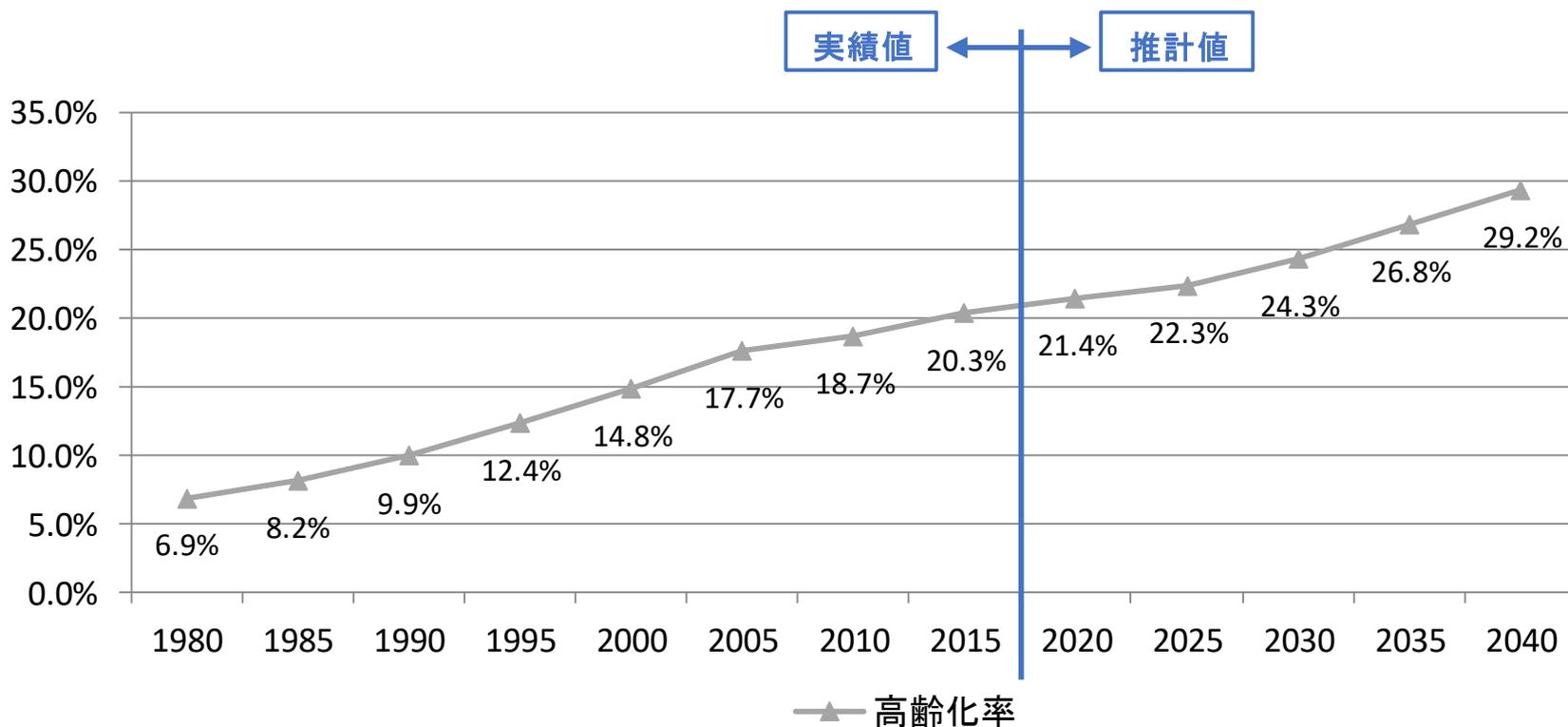
資料：国勢調査（～2015）、小金井市第4次基本構想・後期基本計画（2020～）

# (1) 人口・世帯の動向

## ③ 今後人口が減少しても高齢化率は増加

- 高齢化率は増加傾向にあり、2015年(平成27年)にはほぼ5人に1人が高齢者
- 将来予測によると、今後人口が減少しても高齢化率は増加を続けると予想

図 高齢化率の推移と将来予測



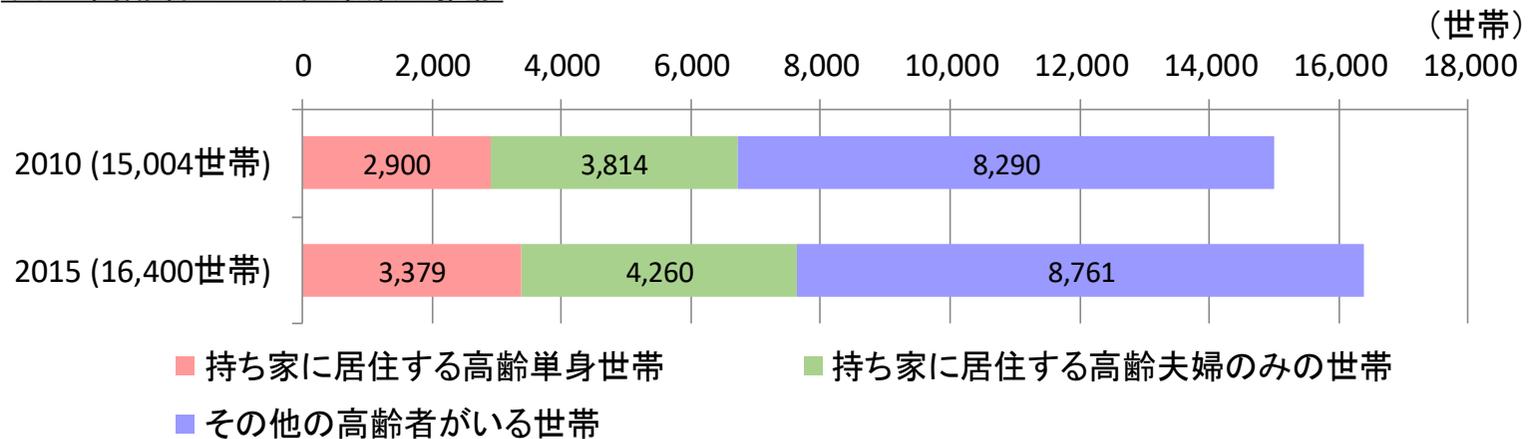
資料：国勢調査（～2015）、小金井市第4次基本構想・後期基本計画（2020～）  
※不詳を除く総人口に対する65歳以上の割合

# (1) 人口・世帯の動向

## ④高齡化の進展に合わせて、高齡者のいる世帯も増加

- 高齡化の進展に合わせて、高齡者のいる世帯も増加
- 持ち家に居住する高齡単身世帯・高齡夫婦世帯も増加

図 高齡者がいる世帯数の推移



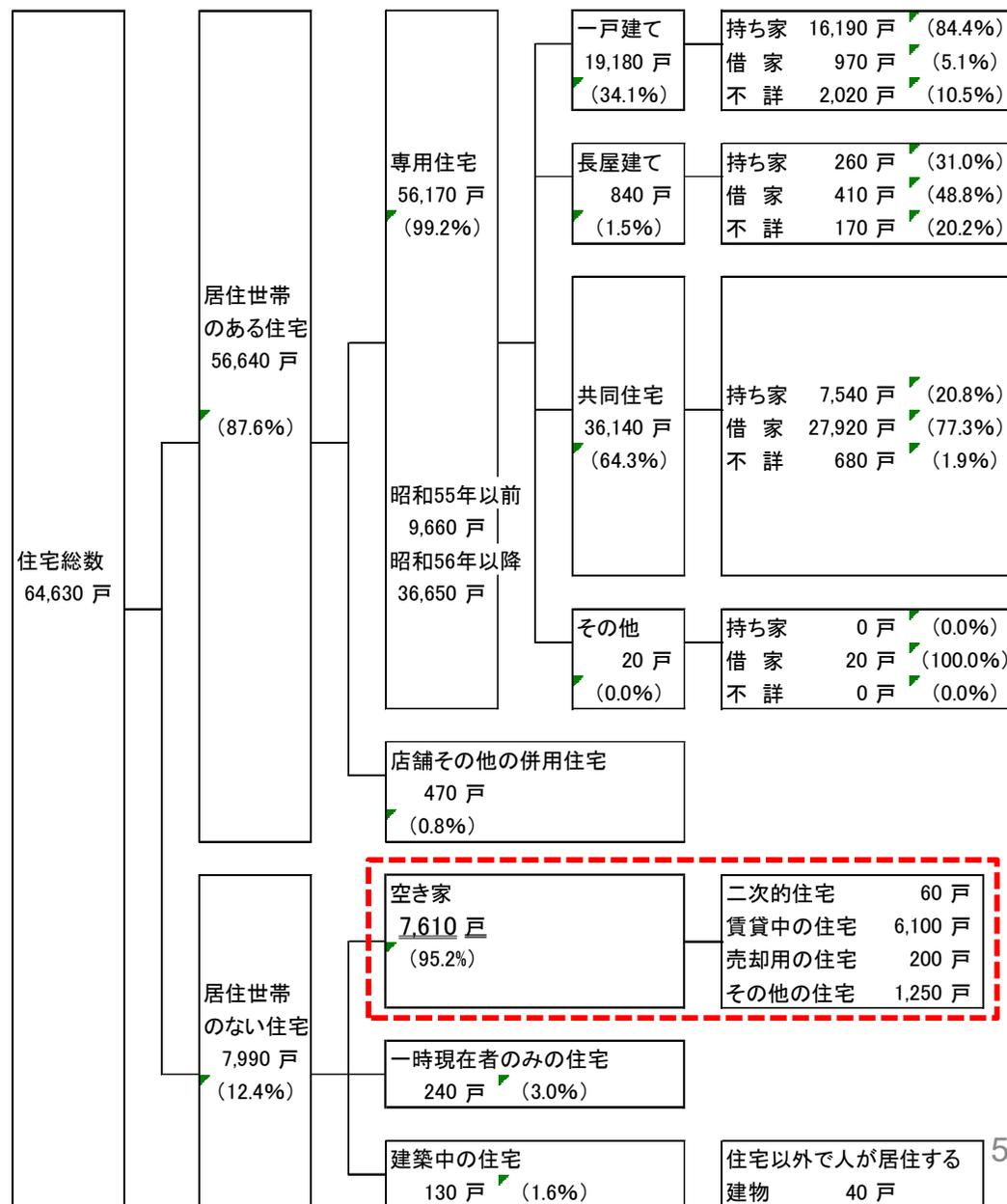
資料：国勢調査

## (2) 住宅事情

### ① 住宅・土地統計調査

- 住宅及び住宅以外で人が居住する建物に関する実態並びにこれらに居住している世帯に関する実態を把握する調査
- 全戸調査ではなく、一部住宅を抽出して調査する抽出調査のため、各項目の内訳を足し合わせたものと合計が一致しない場合がある

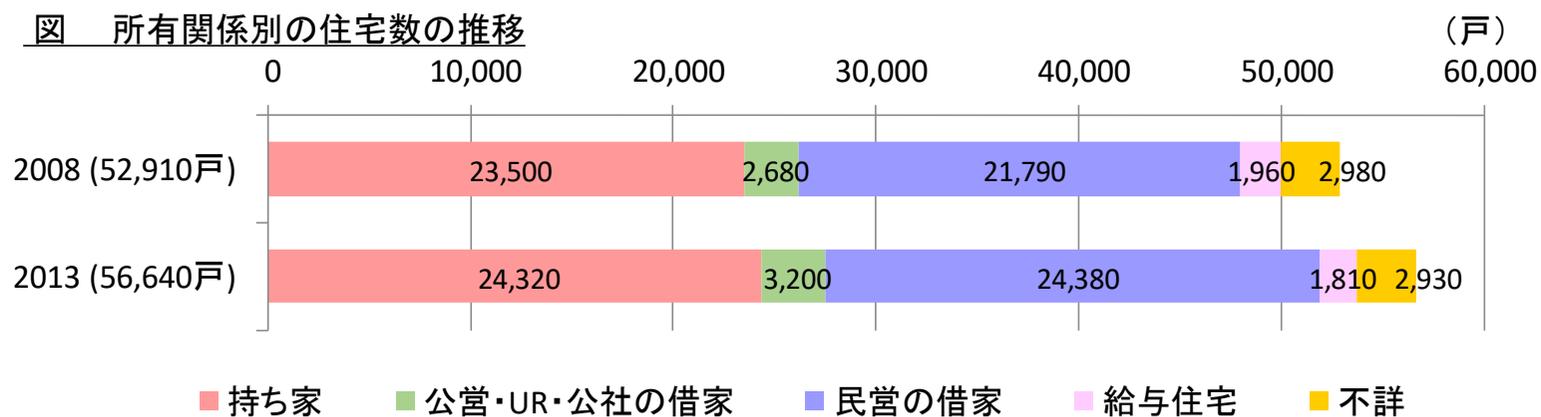
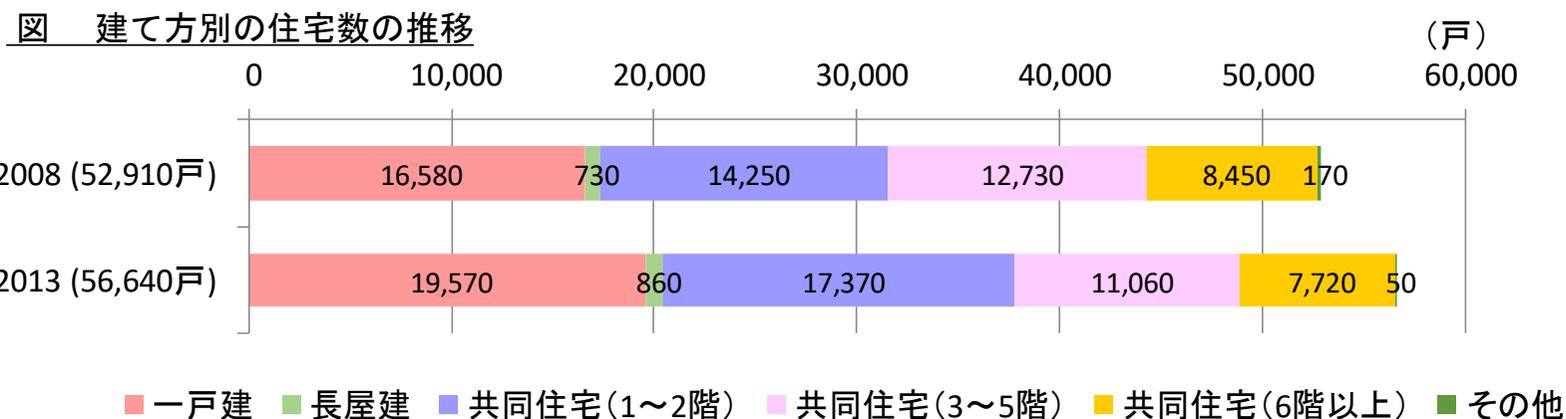
図 住宅・土地統計調査による住宅分類（2013年）



## (2) 住宅事情

### ②低層の住宅が増加し、持ち家と民営の借家が約半々

- 市内の住宅を建て方別にみると、低層の住宅（一戸建 約2万戸（34.6%）、共同住宅（1～2階） 約1.7万戸（30.7%））が多くを占めており、どちらも増加
- 所有関係別にみると、持ち家と民営の借家が約半々の割合



資料：住宅・土地統計調査

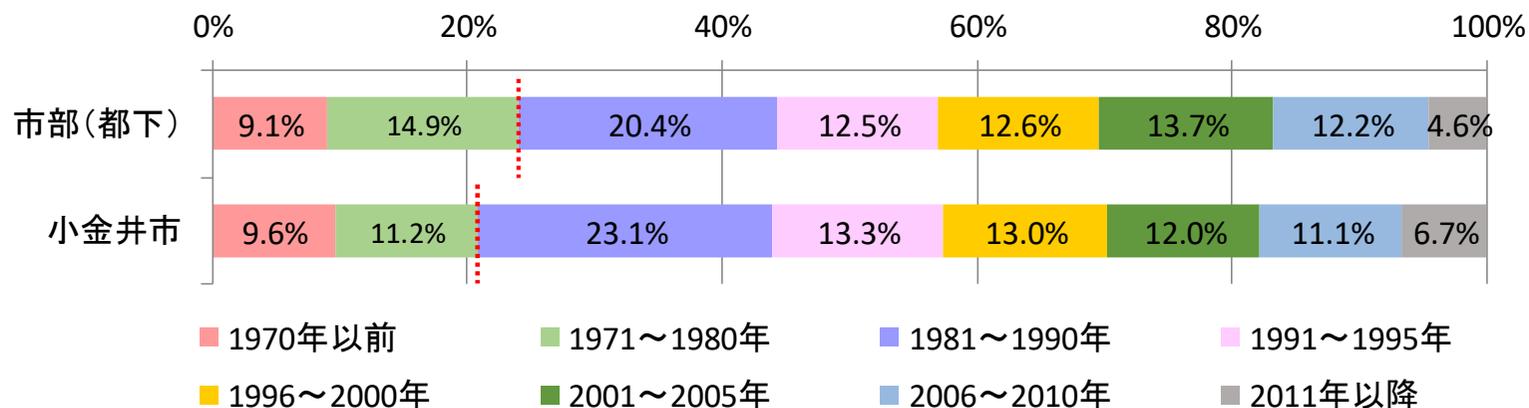
※抽出調査のため、各項目の内訳を足し合わせたものと合計が一致しない場合がある

## (2) 住宅事情

### ③ 比較的建築時期の新しい住宅の割合が多い

- 旧耐震基準である1980年(昭和55年)以前に建てられた住宅の割合は、20.8%と市部(都下)の平均よりも低く、比較的建築時期の新しい住宅の割合が多い

図 建築時期別の住宅数の割合 (2013年)

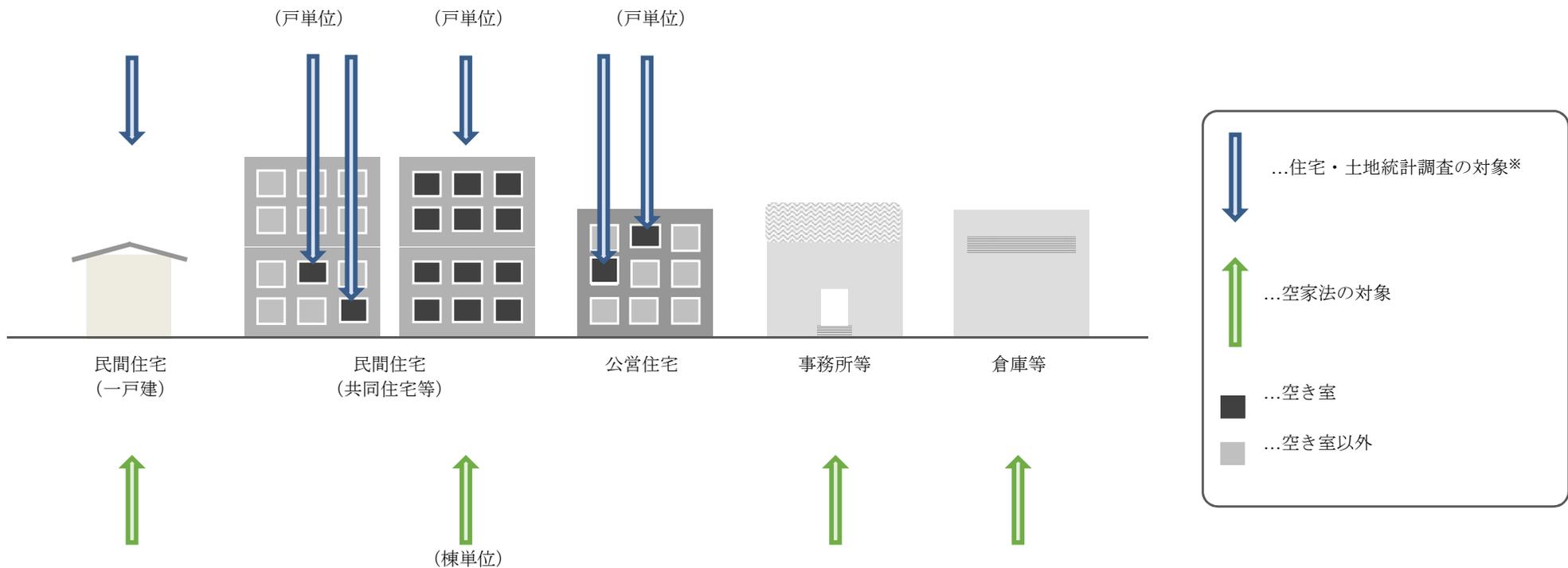


資料：平成25年住宅・土地統計調査

# (3) 住宅・土地統計調査による空き家の状況

## ①統計による空き家の定義

※空家法の対象とする「空家等」の定義とは異なり、共同住宅の空き室等も含む

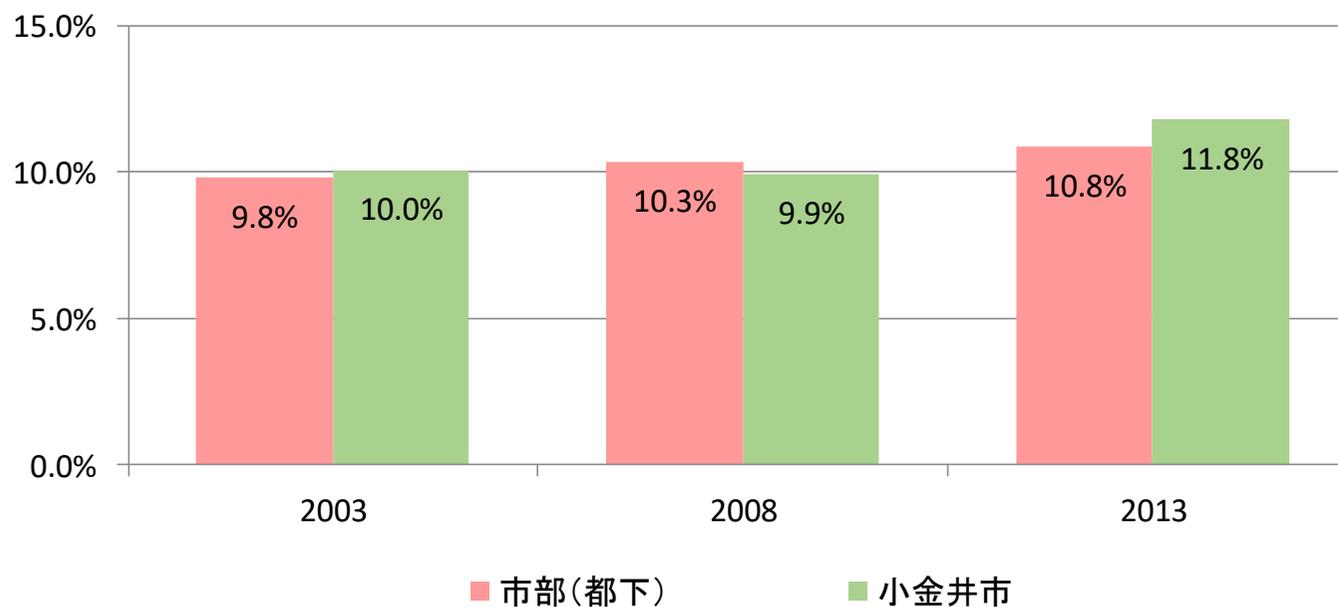


### (3) 住宅・土地統計調査による空き家の状況

#### ② 空き家率はやや増加

- 空き家率は、都下平均とほぼ同程度で推移
- 2013年(平成25年)の空き家率は11.8%と、2008年(平成20年)に比べてやや増加

図 空き家率の推移



資料：住宅・土地統計調査

# (3) 住宅・土地統計調査による空き家の状況

## ③「賃貸用の住宅」

### 「その他の住宅」が増加

- 種類別にみると、「賃貸用の住宅」や、市場で流通しておらず活用もされていないと考えられる「その他の住宅」が増加
- 一部住宅を抽出して調査する統計調査であるため、実態よりも戸数が多くなる可能性がある

図 種類別空き家の割合

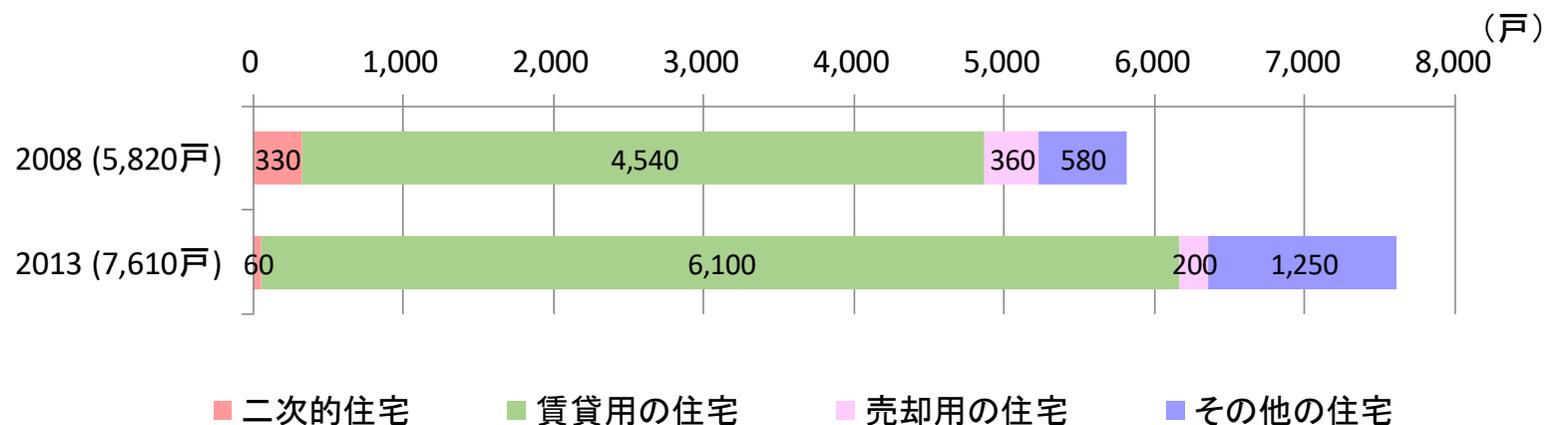
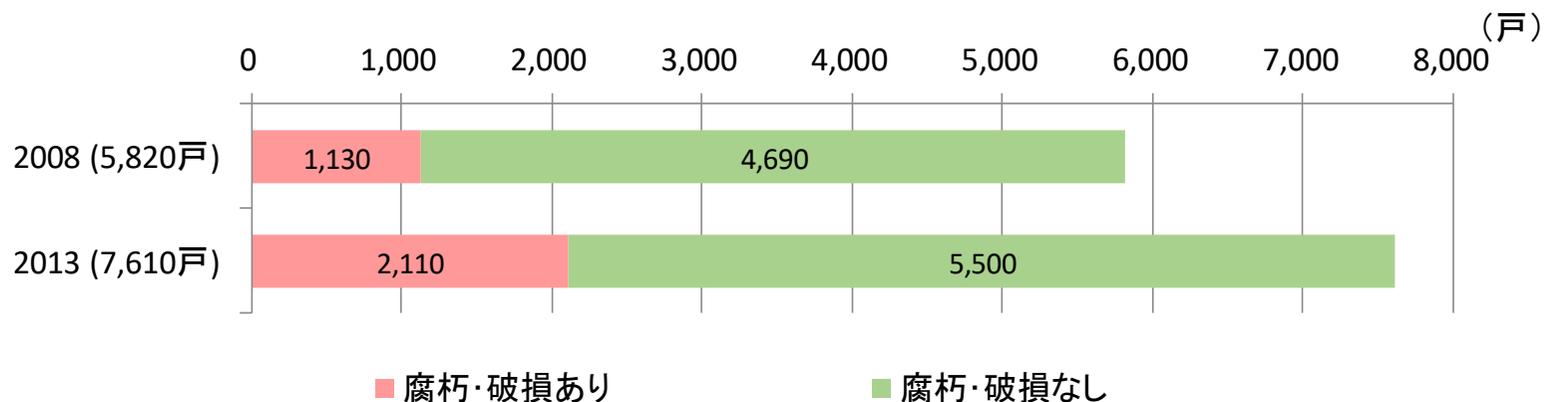


図 腐朽・破損の有無別空き家の割合



資料：住宅・土地統計調査

※抽出調査のため、各項目の内訳を足し合わせたものと合計が一致しない場合がある